

九州・山口県の火山活動 (令和7年4月1日～5月20日)

令和7年5月20日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・霧島山(新燃岳) 4/2 噴火警戒レベル3(3km※)に切替
- ・口永良部島 4/16 噴火警戒レベル2に引上げ

※警戒範囲

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制) (警戒範囲3km)

新燃岳火口から概ね3kmの範囲で警戒(大きな噴石:火口から概ね3kmまで、火砕流:火口から概ね2kmまで)。

- ・火山性地震は増減の繰り返し。
- ・4月22日から26日にかけて北西上がりの緩やかな傾斜変動を観測。

口永良部島

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

新岳火口及び古岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴い飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒。西側は新岳火口から概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒。

- ・4月のはじめ頃から古岳火口付近の浅部を震源とする火山性地震が増加し、その後も概ね多い状態で経過。

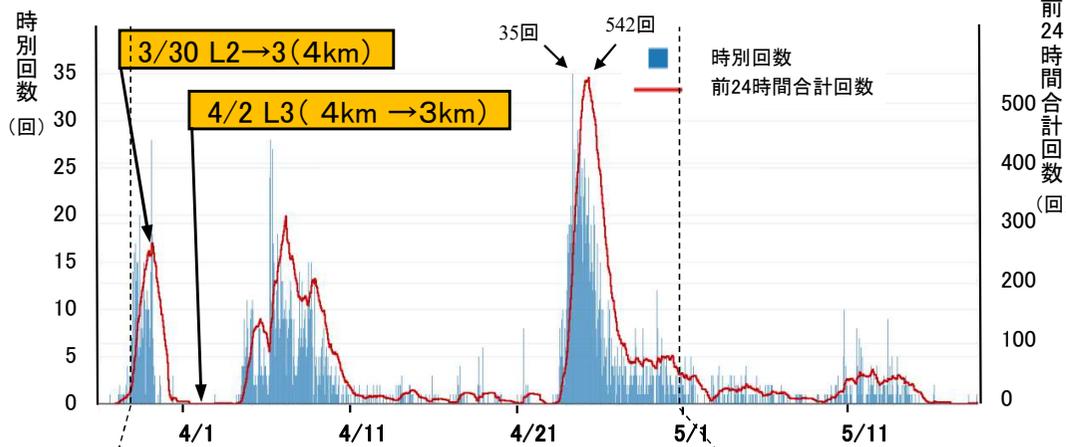
噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和7年5月20日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲ 噴火警報発表中の火山
▲ 噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)
△ 噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)



霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル3(入山規制)



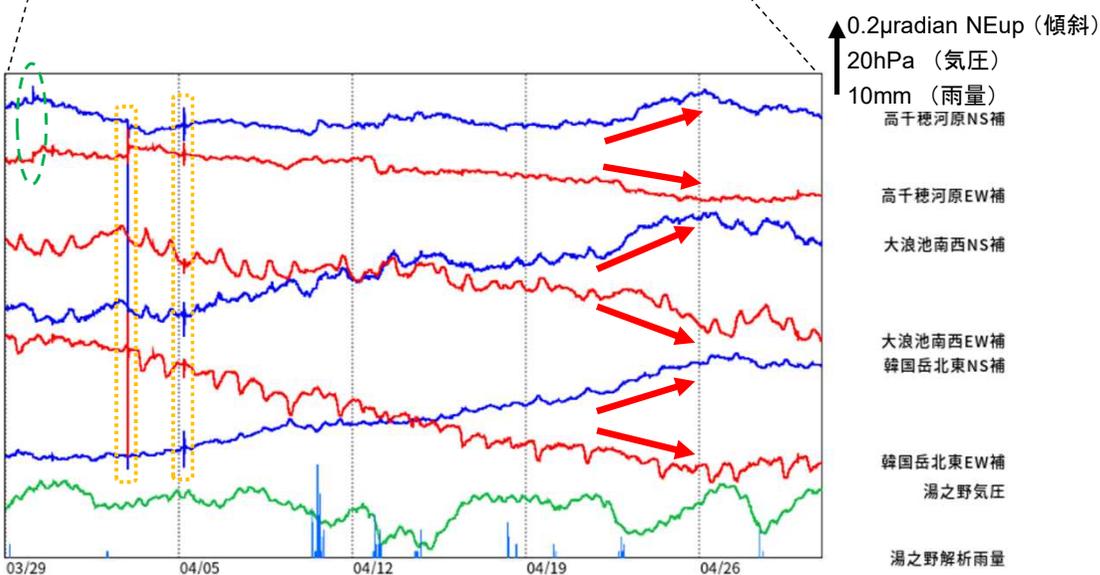
3/30 : 噴火警戒レベル2→3(警戒範囲4km)

4/2 : 噴火警戒レベル3
(警戒範囲4km→3km)

新燃岳火口から3km以内に影響を及ぼす噴火の可能性あり



火山性地震の特別回数及び前24時間合計回数
(2025年3月27日～5月18日)

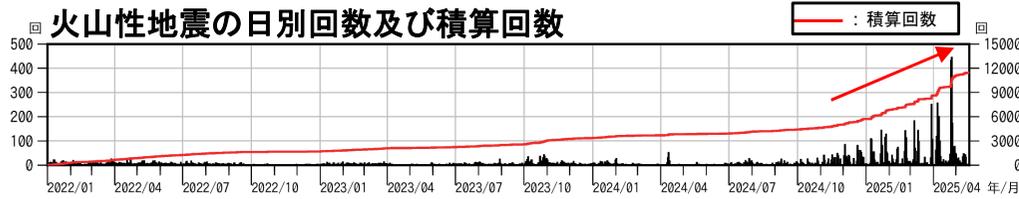


- 新燃岳の火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返している。噴火警戒レベルを3に引き上げた3月30日以降も間欠的に回数の増加がみられ、4月25日には前24時間の地震回数が500回を超えた。4月27日、5月1日～2日には継続時間の長い火山性微動が発生。
- 新燃岳周辺の複数の傾斜計では、4月22日から26日にかけて北西上がりの緩やかな傾斜変動が観測された(赤矢印)。

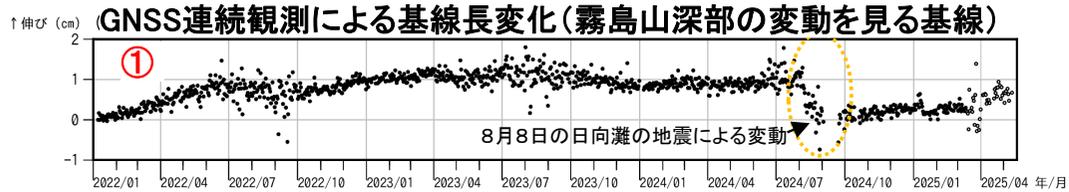
傾斜計による地殻変動の状況(分値)(2025年3月29日～4月30日)

- 緑色破線内は3月30日にみられた山体の膨張を示す地殻変動。
- 橙色破線内の変化は遠地地震による変動。
- 各観測点の成分名に付記された「補」の文字は、そのデータが潮汐補正済みであることを示す。

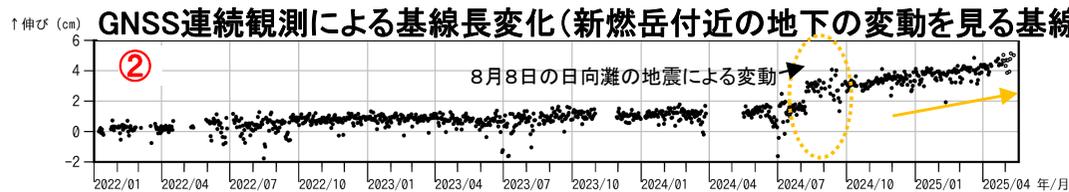
霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル3(入山規制)



2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返しながら発生し、その増分は次第に多くなる傾向(赤矢印)。



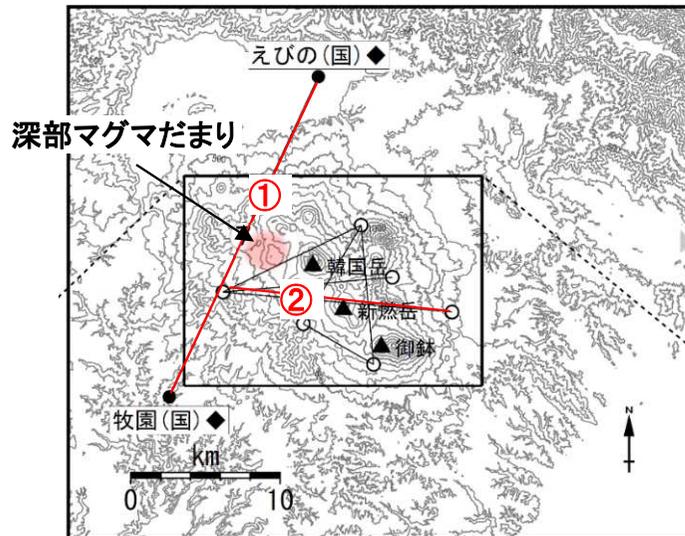
GNSS連続観測では、2024年11月頃から、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる(橙矢印)。霧島山深部の膨張を示す変化は認められない。



新燃岳西側斜面の割れ目で、4月30日から白色の噴気が時々観測され、最高で100mまで上がりました。新燃岳火口内における白色噴煙の状況に特段の変化は認められない。



火山活動経過図(2022年1月1日~2025年5月18日)



GNSS連続観測(上図)の基線を赤線で示す。



新燃岳西側斜面の割れ目及び新燃岳火口内の噴気の状態
(左図:新湯林道監視カメラ、右図:大浪池監視カメラ(鹿児島県設置))

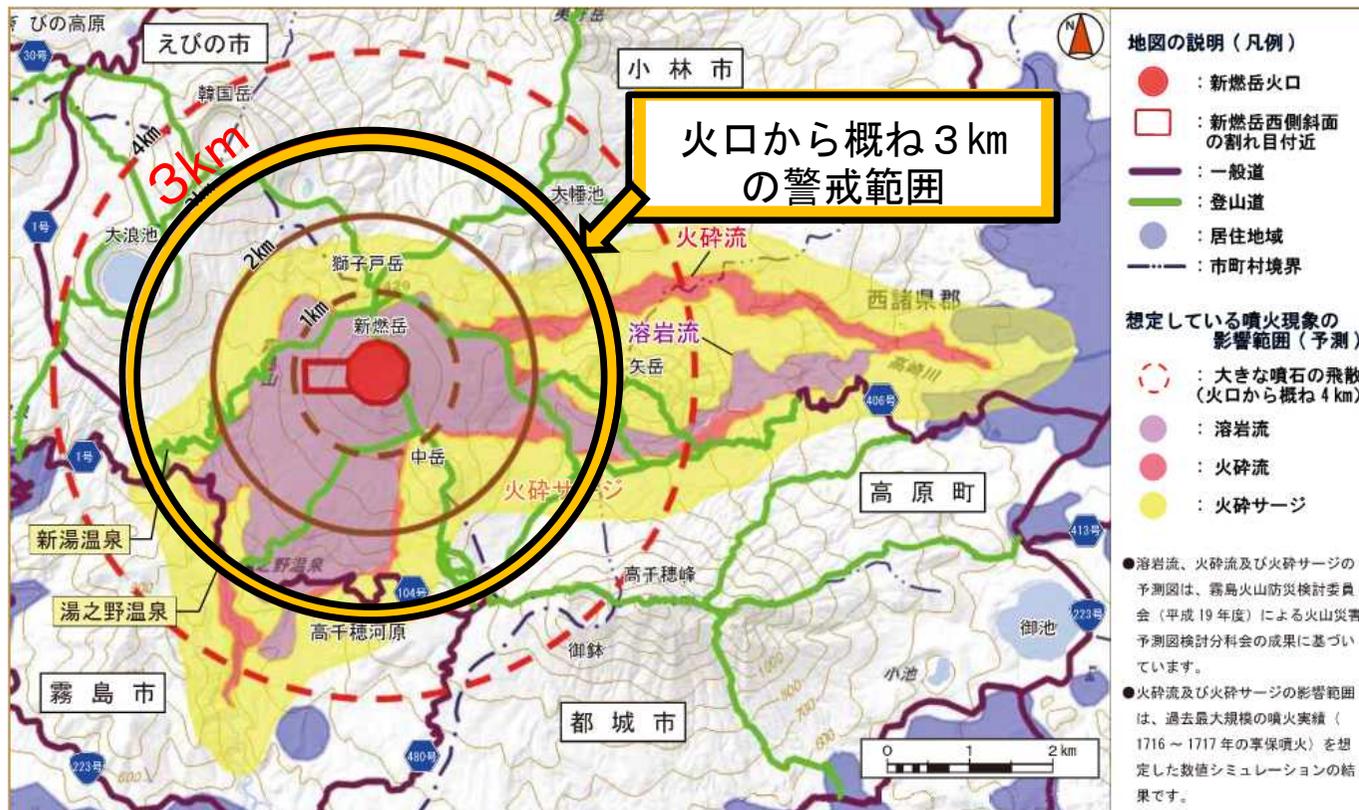
新岳西側斜面の割れ目で噴気を観測(緑矢印)

霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項等

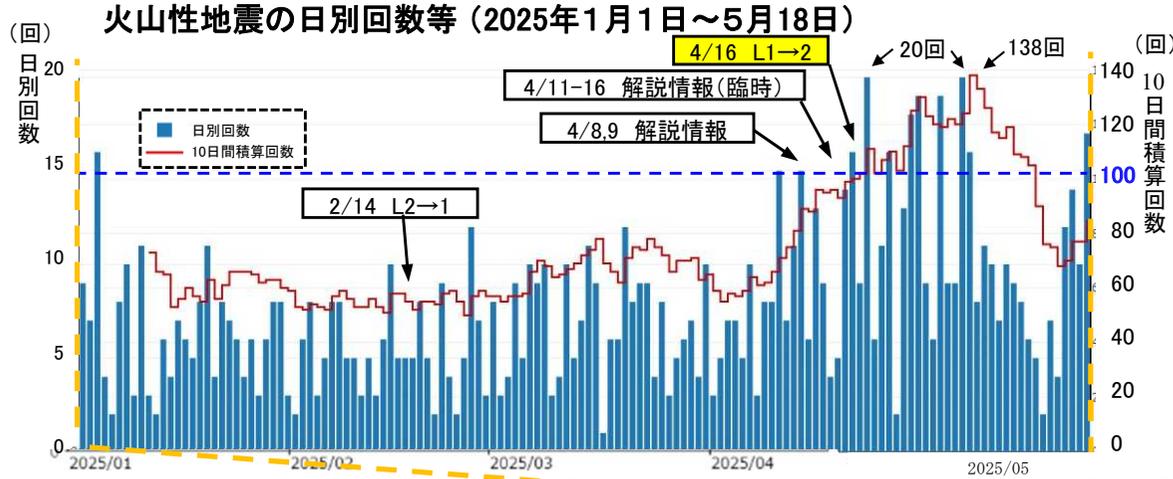
弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。



- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

口永良部島

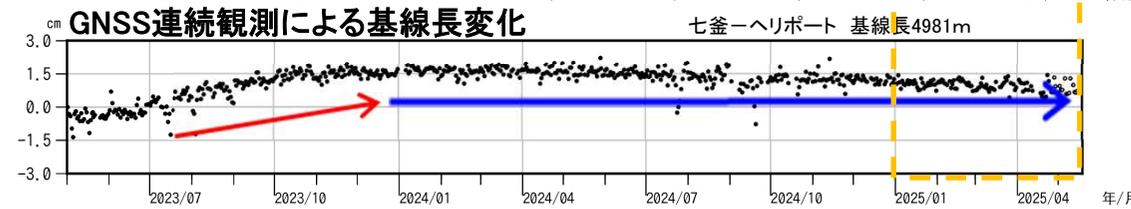
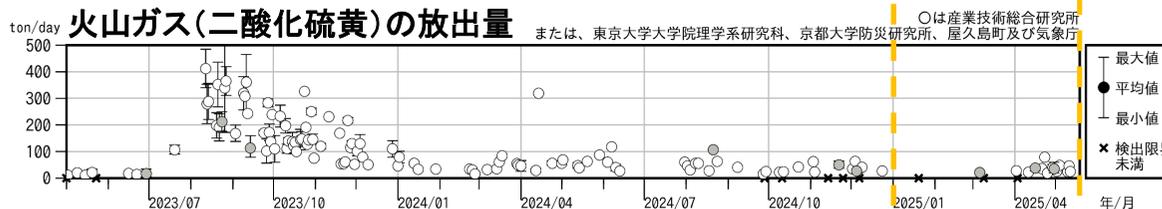
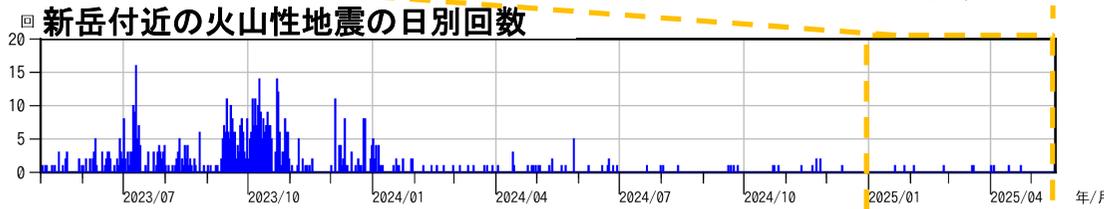
噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



- 4/8,9 : 火山の状況に関する解説情報発表
- 4/11-16 : 火山の状況に関する解説情報(臨時)発表
- 4/16 : 噴火警戒レベル1→2(火口周辺規制)

新岳及び古岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性あり。

- 4月のはじめ頃から古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が増加。最近はやや多い状態。
- 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1日あたり20トン~80トンと少ない状態で検出限界を下回る日もみられた。
- GNSS連続観測では、2023年11月以降、山体の膨張を示す変動は認められない。



GNSS連続観測点と基線
GNSS基線長図(左下図)の基線を赤線で示す。



火山活動経過図(2023年5月1日~2025年5月18日)

口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

新岳火口及び古岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、西側は新岳火口から概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

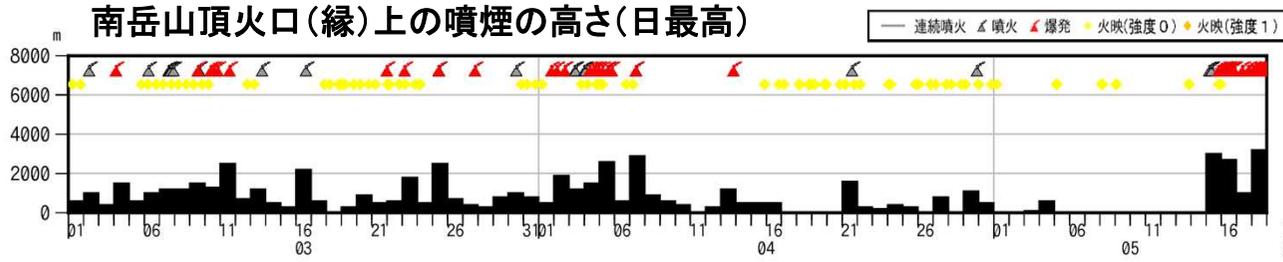


- ・ 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・ 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

桜島

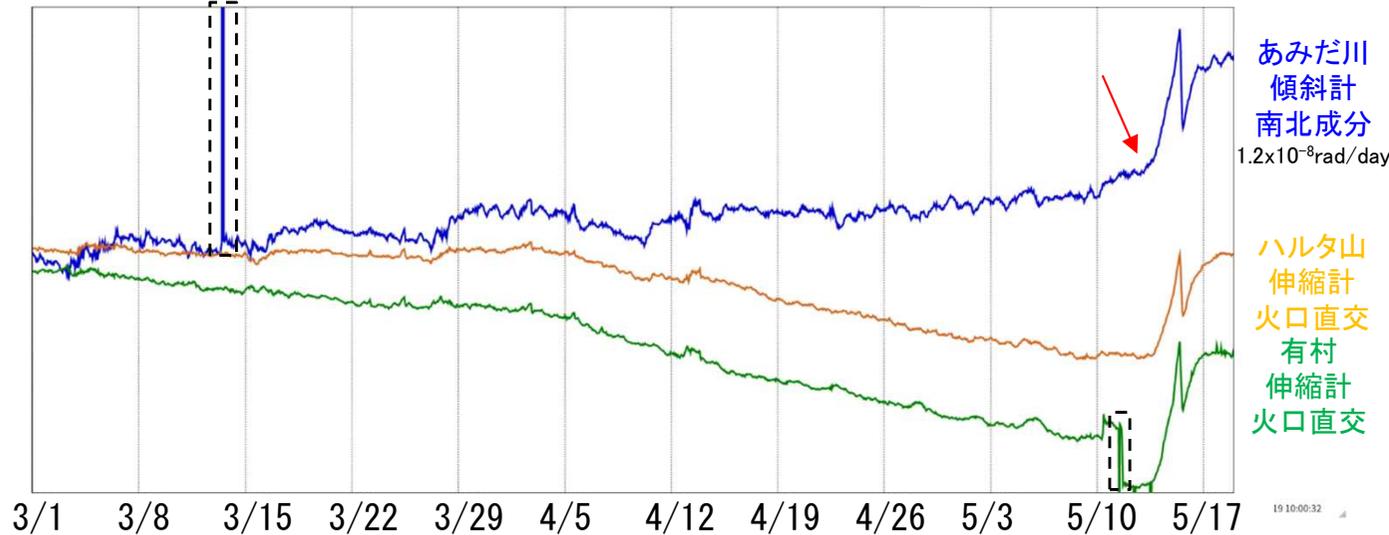
噴火警戒レベル3(入山規制)

5/14 ~: 火山の状況に関する解説情報発表



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況

↑ 150nstrain 火口直交方向伸張
↑ 150nradian 南(火口)方向UP



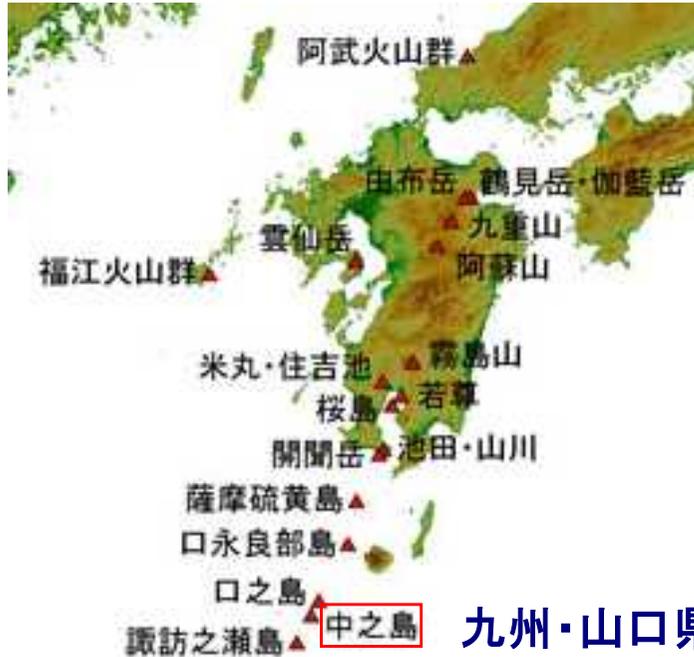
火山活動経過図(2025年3月1日~5月18日)

※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の北側が下がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示
 ※あみだ川傾斜計では長期的に北側が上がる傾斜変動(1.2×10^{-8} rad/day)がみられていることから、これを補正したうえで表示
 ※破線内は機器点検による

- 山体膨張に伴い、南岳山頂火口で5月15日から噴火が増加し、5月の噴火回数は18日までに59回(うち爆発が36回)。5月18日18時54分に発生した爆発では、噴煙の高さは火口縁上3200mまで上がった。5月19日04時41分に発生した爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が5合目(南岳山頂火口より約1200m)に達した。(回数等は速報値)
- 5月12日20時頃から山体膨張を示す地殻変動。噴火により、15日11時30分頃から15時30分頃まで一時的に山体収縮。その後は再び山体膨張に転じた。

お知らせ

中之島の火山活動解説資料の公表について



九州・山口県の活火山



中之島全景



ホーム > 各種データ・資料 > 火山データ・資料 > 月間火山概況・火山活動解説資料

月間火山概況・火山活動解説資料

[福岡管区気象台 地域火山監視・警報センター 鹿児島地方気象台発表]

火山名	最新の定期資料 (2025年4月)	定期発表資料	臨時に発表した資料
鶴見岳・伽藍岳	1.5MB	2025年4月[1.5MB] 表示	
九重山	1.9MB	2025年4月[1.9MB] 表示	
阿蘇山	1.8MB	2025年4月[1.8MB] 表示	2024年7月19日[1.8MB] 表示
雲仙岳	1.6MB	2025年4月[1.6MB] 表示	
霧島山	5.8MB	2025年4月[5.8MB] 表示	2025年4月2日[2.7MB] 表示
桜島	2.8MB	2025年4月[2.8MB] 表示	
薩摩硫黄島	1.7MB	2025年4月[1.7MB] 表示	
口永良部島	3.5MB	2025年4月[3.5MB] 表示	2025年4月17日[2.4MB] 表示
中之島	943KB	2025年4月[943KB] 表示	
諏訪之瀬島	1.4MB	2025年4月[1.4MB] 表示	2024年1月19日[2.1MB] 表示

中之島の火山活動解説資料を4月分（5月12日発表）から公表開始しました。

こちらで火山活動解説資料をご覧頂けます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

以下、参考資料
(火山の活動状況、用語集など)

霧島山(新燃岳) 活動状況1

噴火警戒レベル3(入山規制)

＜2025年4月から5月18日までの状況＞

(5月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- 新燃岳火口では、噴煙は最高で火口縁上400m以下で経過。
- 新燃岳火口西側斜面の割れ目では、4月30日から白色の噴気が時々観測され、最高で100mまで上がりました。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

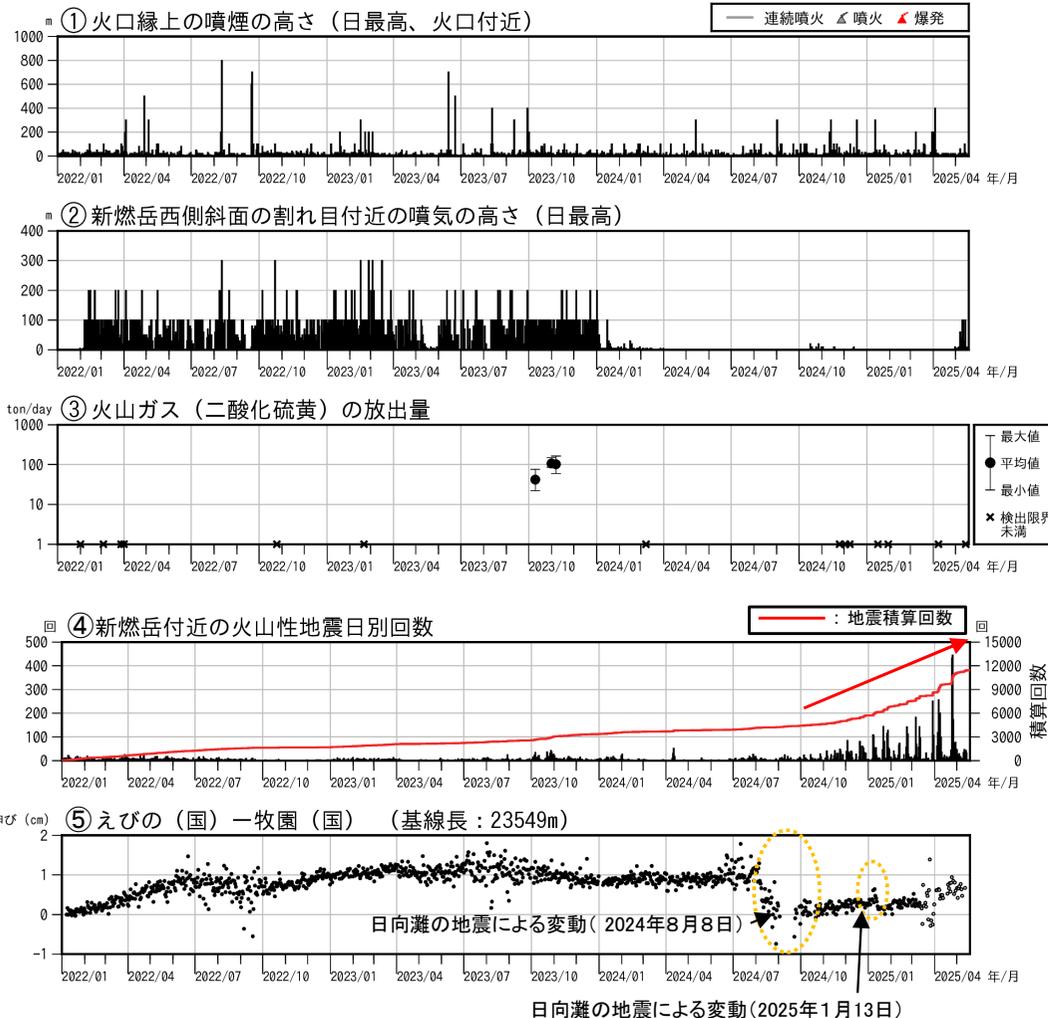
- 4月8日と5月15日に実施した現地調査では、検出限界未満。

火山性地震の状況

- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返し、多い状態で経過(④赤矢印)。
4月の月回数は2442回で、前月(3月:1092回)と比較して増加。

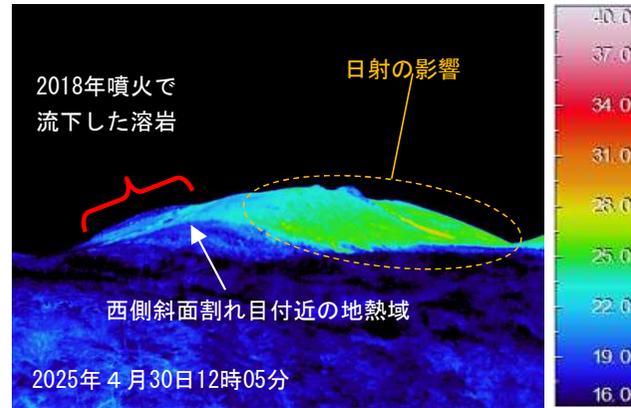
GNSS連続観測(広域)の状況

- 霧島山深部の膨張を示す変化は認められない。



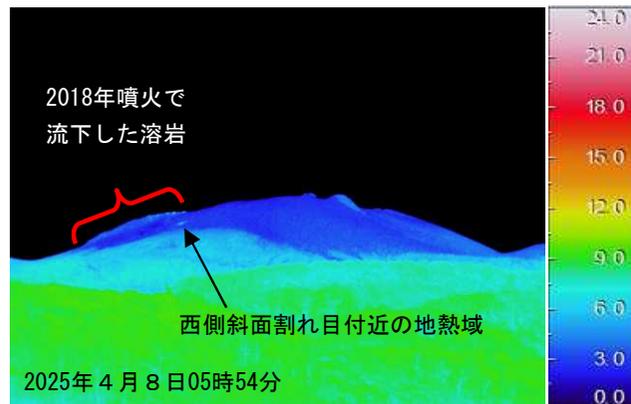
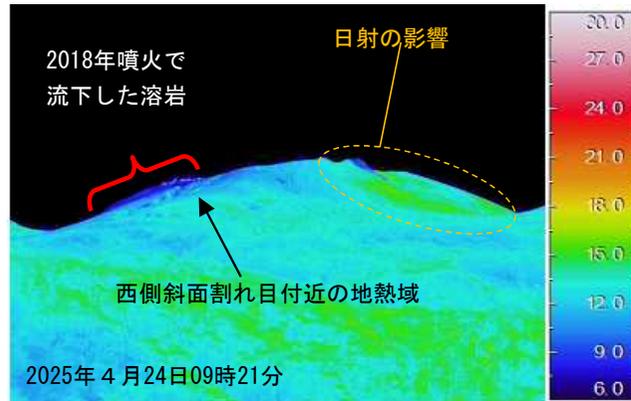
霧島山(新燃岳) 火山活動経過図
(2022年1月～2025年5月18日)

霧島山(新燃岳) 活動状況3



2025年4月8日、24日及び30日に新湯温泉付近から実施した現地調査

- 2018年噴火で流下した溶岩の上部及び新燃岳西側斜面割れ目付近でわずかな地熱域を引き続き確認。
- 2018年噴火で流下した溶岩の上部において高さ約10mの弱い噴気が上がっていることを確認。
- 新燃岳西側斜面割れ目付近からの噴気は認められなかった。



霧島山(新燃岳) 新燃岳西側の状況(新湯からの観測)

桜島 活動状況 噴火警戒レベル3(入山規制)

5/14～ : 火山の状況に関する解説情報発表

＜2025年4月から5月18日までの状況＞
(5月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・南岳山頂火口では、噴火が80回(4月: 21回、5月: 59回)発生。このうち爆発は48回(4月: 12回、5月: 36回)。噴煙は最高で火口縁上3,200mまで上昇。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたりの放出量は300～1,800トン。
- ・概ね多い状態で経過。

火山性地震等の状況

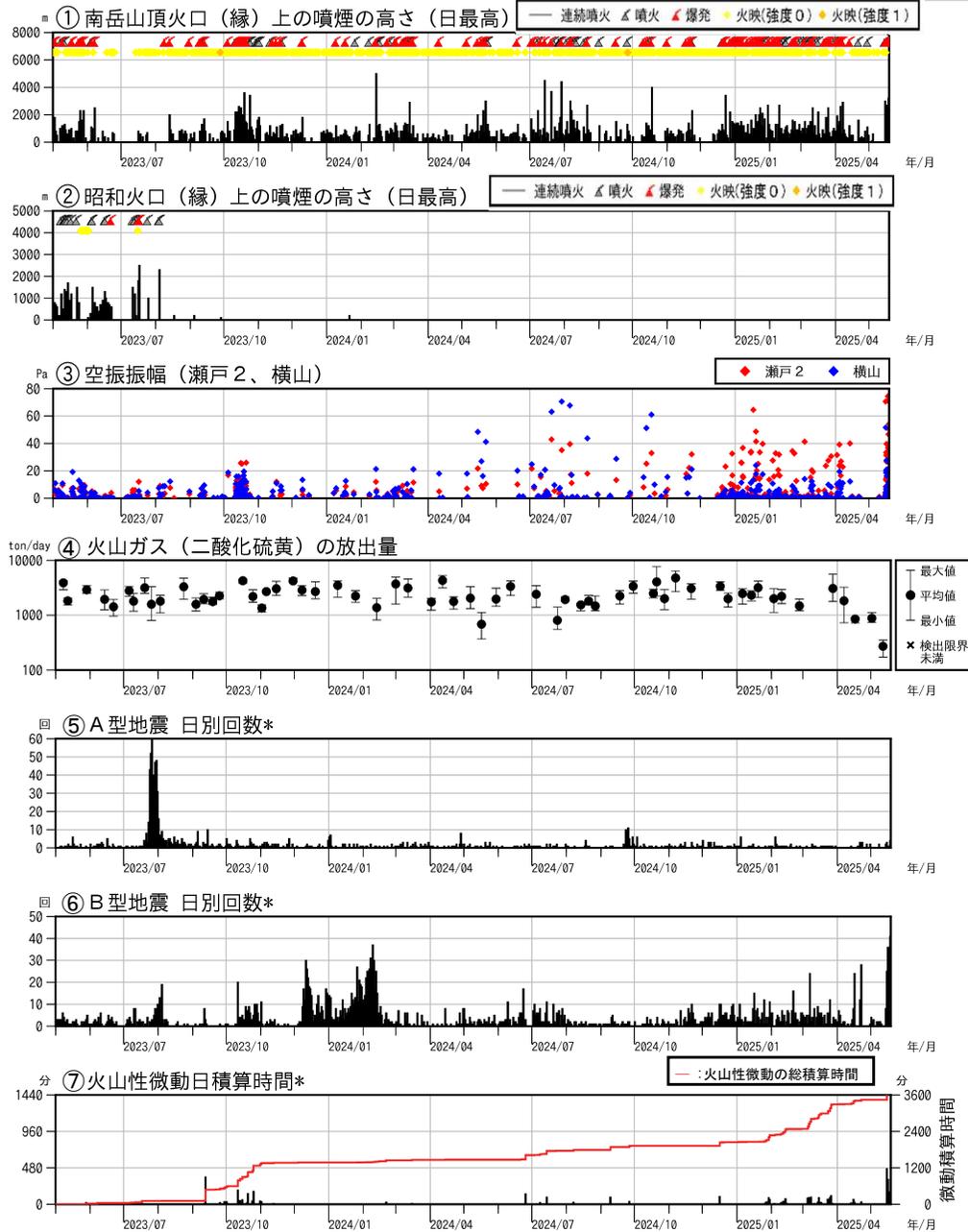
- ・火山性地震は少ない状態で経過。地震回数は320回(4月: 121回、5月: 199回)。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。

地殻変動の状況

- ・5月12日20時頃から島内に設置している傾斜計及び伸縮計で、山体の膨張を示す地殻変動がみられた。

← 桜島 火山活動経過図

(2023年5月～2025年5月18日)



桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

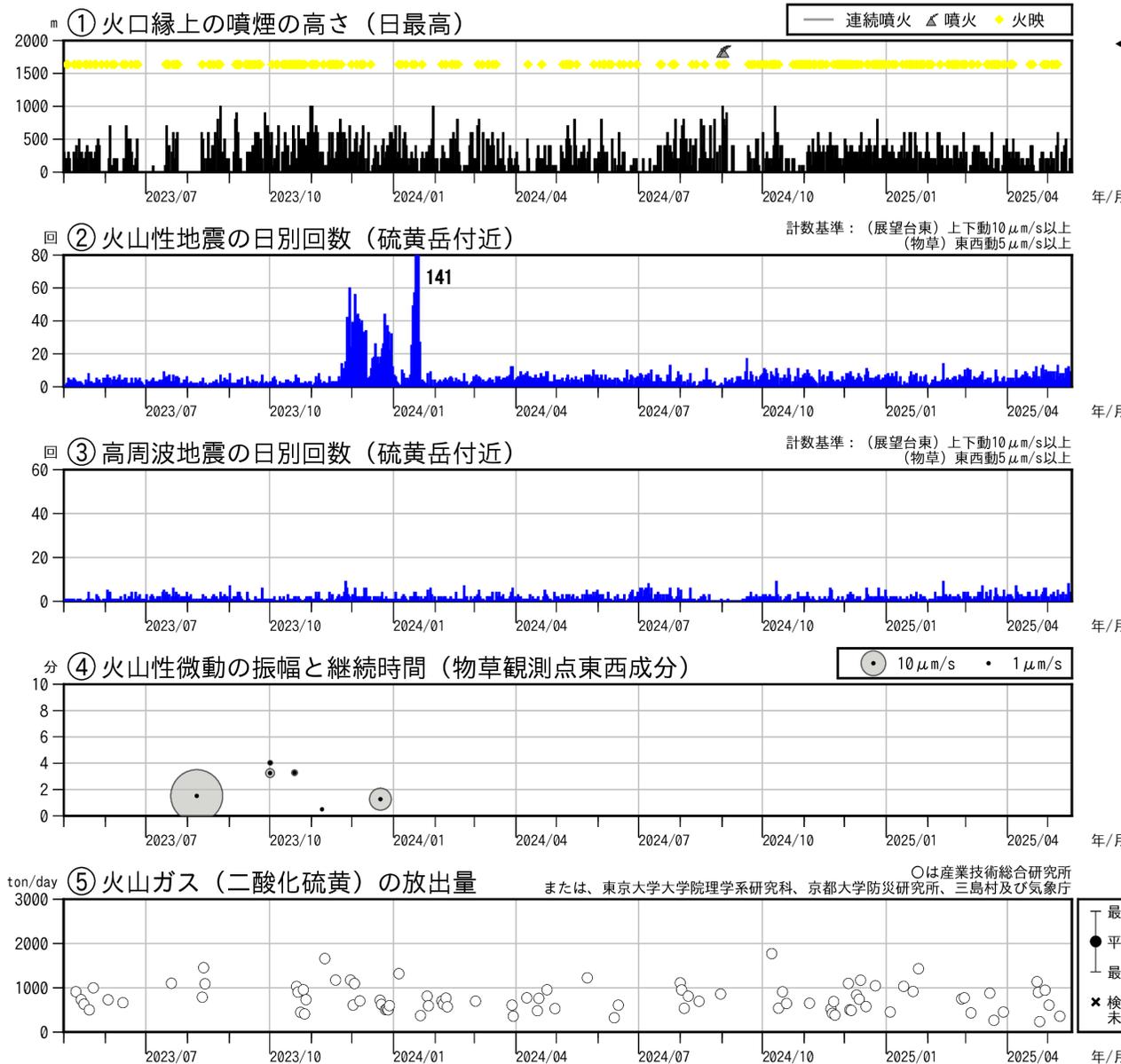


昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



＜ 2025年4月から5月18日までの状況＞
(5月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過(4月: 188回、5月: 147回)。このうち、高周波地震の月回数は4月78回、5月48回。
- ・火山性微動は観測されていない。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたり200～1,100トンで経過。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状態が継続。

薩摩硫黄島 火山活動経過図(2023年5月～2025年5月18日)

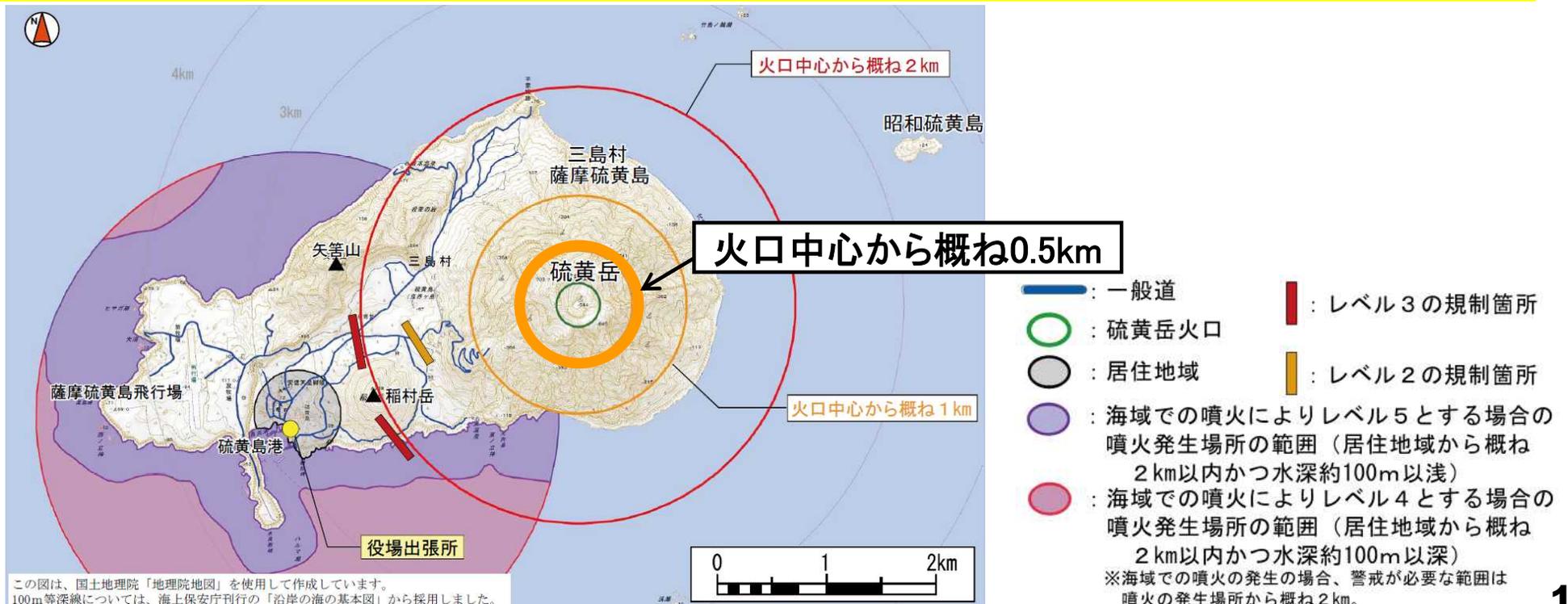
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



口永良部島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

＜2025年4月から5月18日までの状況＞

(5月の回数等は速報値)

噴煙の状況

- 新岳火口では、5月7日と8日に一時的に白色の噴煙が最高で600mまで上昇。
- 古岳火口では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は観測されなかった。山麓からの現地調査において古岳火口からの噴煙は認められなかった。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

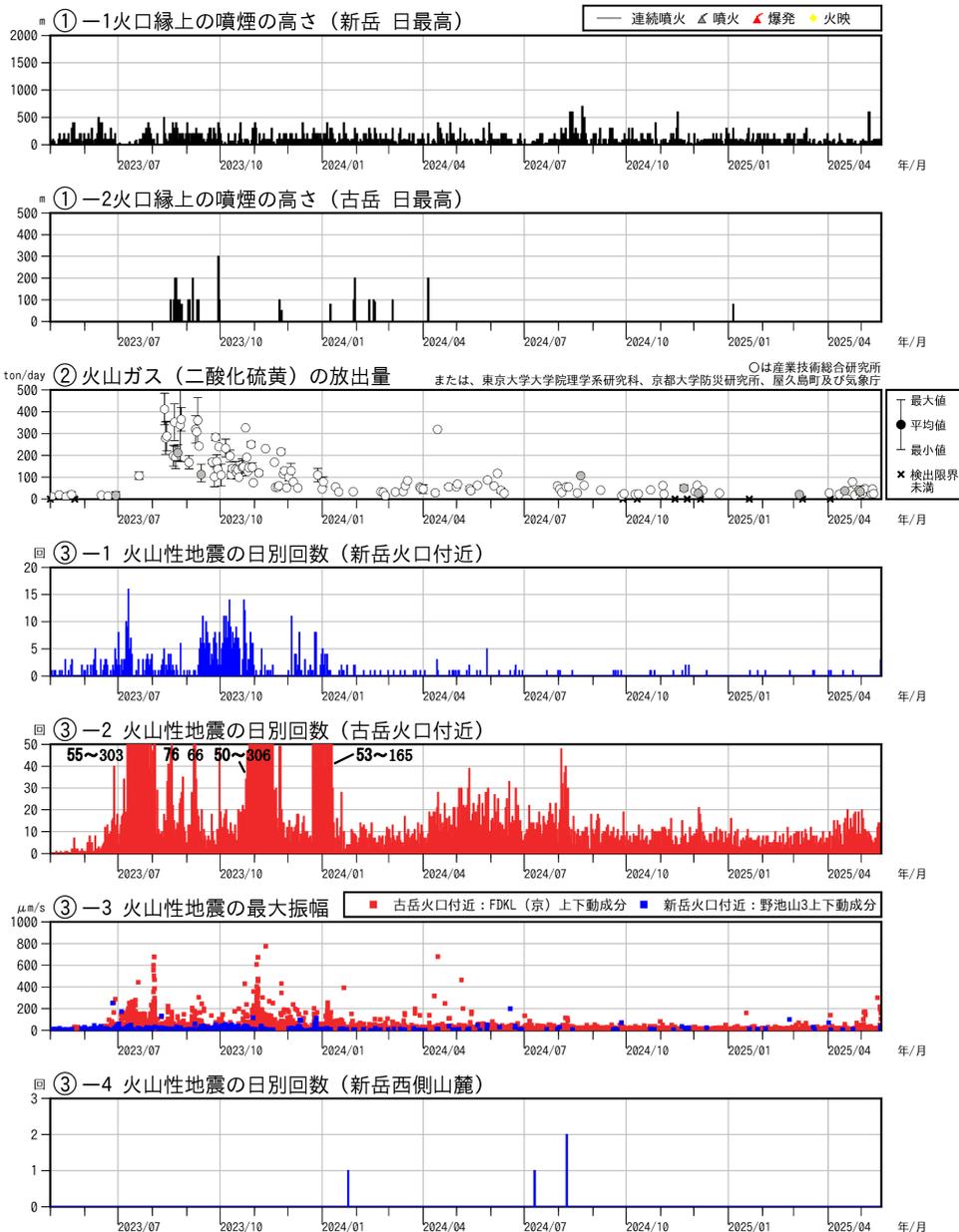
- 1日あたり20～80トンと少ない状態で、検出限界を下回る日もみられた。2024年8月以降は概ね少ない状態。

火山性地震の状況

- 古岳火口付近で火山性地震が増加しており、山体の浅いところで地震活動が活発化。新岳火口付近においても時折、火山性地震が発生。火山性地震の回数は、4月16日から5月10日まで、10日間に100回以上。振幅の大きな地震はなし。
- 新岳西側山麓付近の地震は、観測なし。

表 地震回数(単位:回)

	2月	3月	4月	5月 (～18日)
古岳火口付近	154	210	311	173
新岳火口付近	2	2	4	3



口永良部島 火山活動経過図(2023年5月～2025年5月18日)

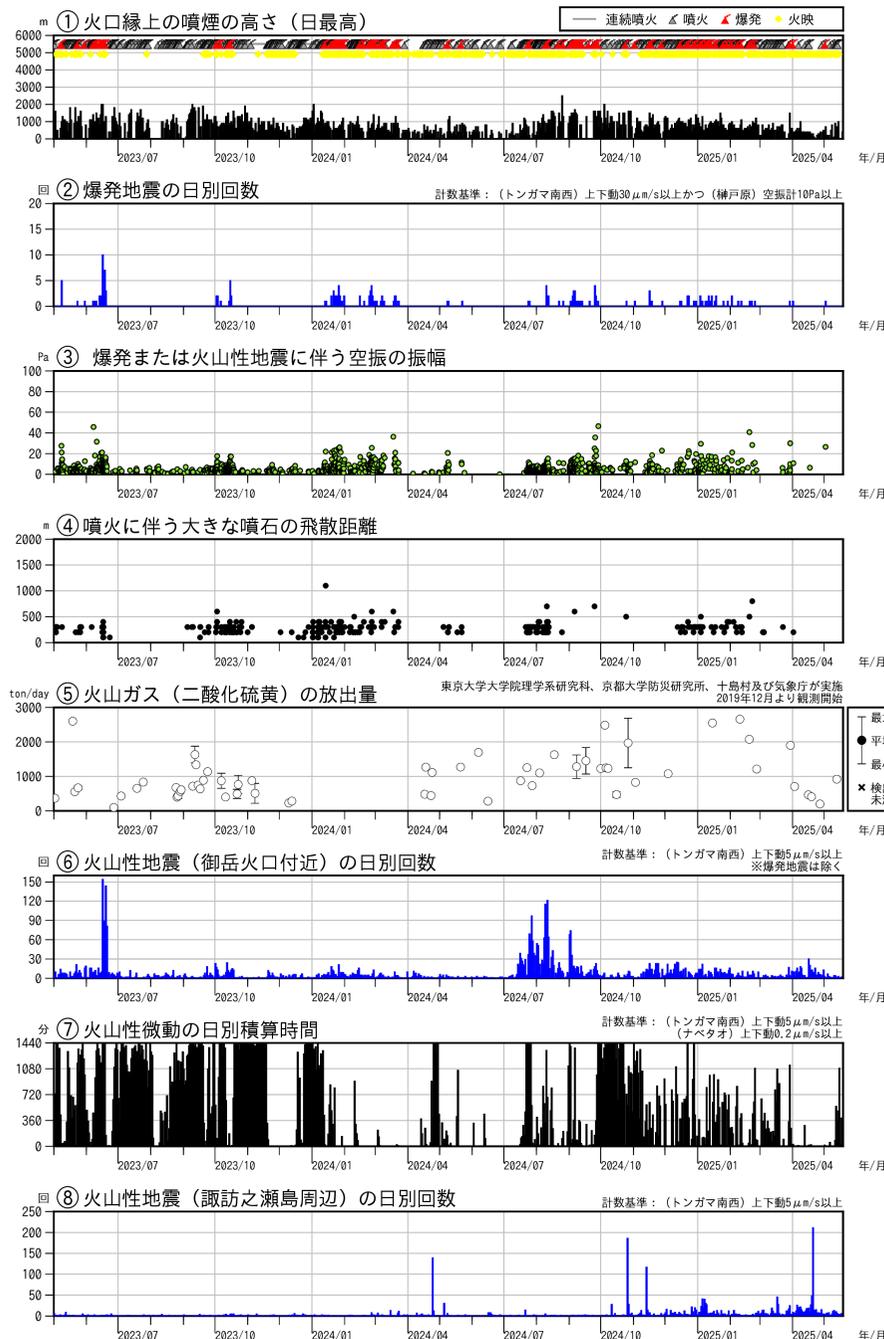
②火山ガス(二酸化硫黄)の放出量については、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が観測を実施。

諏訪之瀬島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

＜2025年4月から5月18日までの状況＞

(5月の回数等は速報値)



噴煙等の状況

- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上1,000mまで上昇。
- 爆発回数は2回(4月:1回、5月:1回)。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約200mまで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり 200～900トン。

火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態(4月600回、5月95回)。
- 御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は少ない状態(4月262回、5月39回)。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。

←諏訪之瀬島 火山活動経過図

(2023年5月～2025年5月18日)

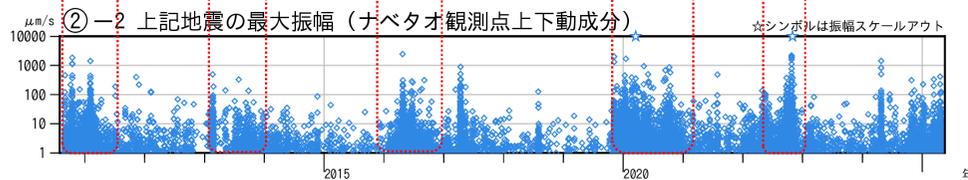
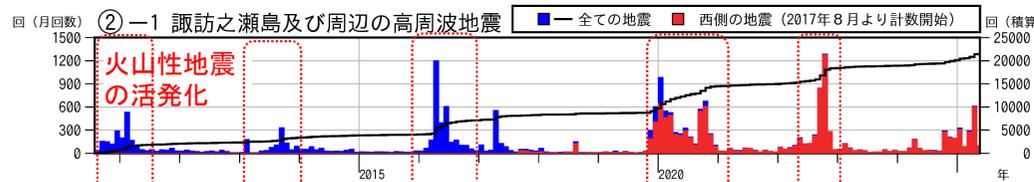
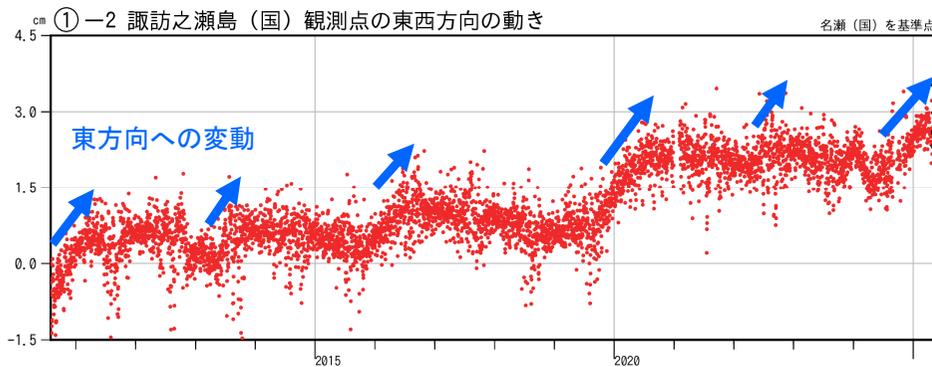
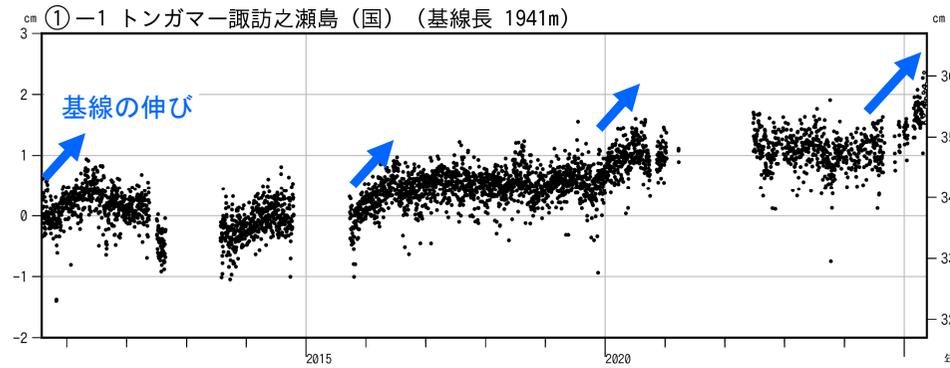
諏訪之瀬島 活動状況

地殻変動の状況

・GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆するわずかな変動が認められている。

火山性地震の状況

・島の西側で発生していると推定される火山性地震は、概ね少ない状態で経過したが、2024年10月頃から増加傾向がみられている。



GNSS連続観測と周辺の火山性地震(2010年8月～2025年5月18日)

①-1の基線は右図①に対応。空白部分は欠測を示す。2024年9月1日の観測点修繕工事(ナベタオ観測点)に伴うステップを補正している。

①-2は島外の観測点(名瀬(国))を固定した観測点の東西の変動を示す。

(国): 国土地理院

観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

GNSS基線長図(左図①-1)の基線を赤線で示す。

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院、(京): 京都大学

諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

- : 一般道
- : 登山道
- : 御岳火口
- : 居住地域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・大きな噴石：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・小さな噴石：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

■ 霧島山(新燃岳)

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

■ 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

■ 薩摩硫黄島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

■ 口永良部島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/509_level_kijunn.pdf

■ 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

- ✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html